

昭和医科大学保健医療学部ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針・卒業時の達成目標）

「至誠一貫」の精神のもと、真心と情熱を持って、保健医療の発展と国民の健康・福祉に寄与する優れた人材を育成するという教育目標を制定しています。この目標を実現するための特色あるカリキュラムを通して、定められた修業年限の中で、以下に関する基本的能力を身につけた者に学士の学位を授与します。

1. プロフェッショナリズム

- ・ 看護師・保健師・理学療法士・作業療法士としての良識、倫理観および強い責任感を持って行動できる。
- ・ 医療を実践するために、法律やルールを遵守し、医療安全に配慮する。
- ・ 医療をともに担う後輩を育てる責任感を有する。

2. コミュニケーション能力

- ・ 患者や家族、保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と良好な人間関係を構築・維持し、必要な情報収集・提供を適切に実践するためのコミュニケーションがとれる。

3. 患者中心のチーム医療

- ・ 保健・医療・福祉に関わるそれぞれの専門職と情報を共有し、信頼と尊敬をもって連携・協力しながら情報を共有し、患者中心のチーム医療を実践できる。

4. 専門的実践能力

4-1 看護学科

- ・ 看護職として科学的根拠と知識・技能・態度に基づき、個人、家族、地域について幅広くアセスメントし、身体的・心理的・社会的な背景を統合した上で、看護問題の特定、看護目標と看護計画を立案できる。
- ・ 看護計画に基づいた看護介入を実施し、再評価・効果判定・計画変更できる。

4-2 理学療法学科

- ・ 理学療法士として科学的根拠と知識・技能・態度に基づき、患者とその環境に対する理学療法評価を実施し、心理・社会的な背景を把握した上で、問題把握、予後予測、目標設定、治療援助計画を作成できる。
- ・ 治療・援助計画に基づいた理学療法介入を実施し、再評価・効果判定・計画変更を実施できる。

4-3 作業療法学科

- ・ 作業療法士としての科学的根拠と知識・技能・態度に基づき、対象者とその環境に対する作業療法評価を実施し、心理・社会的な背景を把握した上で、問題把握、予後予測、目標設定、治療・援助計画を作成できる。
- ・ 治療・援助計画に基づいた作業療法介入を実施、再評価・効果判定・計画変更を実施できる。

4－4 リハビリテーション学科

- ・ リハビリテーションの専門職として、患者の心理・社会的背景を把握したうえで、他の専門職を尊重しながら協調・協働ができる。
- ・ 医療現場において、急性期から生活期までを考慮し、専門的な知識と技術をもって、患者に寄り添い安全なリハビリテーションを提供できる。

【理学療法士】

- ・ 理学療法士として評価の実施、問題把握、予後予測、目標設定、治療・援助計画の作成と実践、再評価・効果判定・計画変更といった一連のプロセスを踏まえた理学療法が実践できる。

【作業療法士】

- ・ 作業療法士として評価の実施、問題把握、予後予測、目標設定、治療・援助計画の作成と実践、再評価・効果判定・計画変更といった一連のプロセスを踏まえ作業療法が実践できる。

5. 社会的貢献

- ・ 看護師・保健師・理学療法士・作業療法士として、地域社会で活躍できる。

6. 自己研鑽

- ・ 国際的視野を持った科学的思考力と、問題解決・研究能力を有する。
- ・ 専門職として生涯にわたって研鑽できる意欲と態度を有する。

7. アイデンティティー

- ・ 昭和医科大学の伝統を重んじ、その名誉を高めるために全力を尽くす。